

長文の読み方

全体を通しての読むテクニック 2回読むつもりで読もう

●1回目--ひととおりざっと読む

- 1 いくつかの段落に分けられているかを見る。
- 2 くりかえし出てくることばを探す。(登場回数が一番多いのがキーワードである。)
- 3 どの段落に「結論」が書かれているかを見つける。
「このように」「要するに」「つまり」などのことばのあと結論を言う場合が多い。
- 4 テーマが何であるか、だいたいの見当をつける。

ポイント 知らないことばがあっても、気にせず読み進めていくこと。

●2回目--解答しながら読む。

- 1 最初の問いを読み、何を問われているかを理解する。
- 2 4つの選択肢をざっと読んでおく。
- 3 問いに関係がありそうな部分に特に注意しながら読み、解答していく。
- 4 次の問題も1、2、3の要領で解いていく。

内容理解のためのテクニック 鉛筆で印を付けたり、メモを書いたりしよう

- キーワードに○をつけていく。(たいてい名詞であるが、動詞のときもある)
- キーワードがいくつかある場合は、最重要キーワードに◎、他は○をつける。
- 理解できなかった文に___を引いて? を付けておく。(あとでもう一度読み返す)
- 段落ごとに簡単な要旨をその段落の横にメモする。(始まりのことばに注意)
- 重要だと思われる文(キーセンテンス)に~~~~~をつける。
- 登場人物に□をつける。
- 指示語や代名詞はどれを指しているか矢印をつける。(…○◎。それは…)
- 「」の部分はだれが言ったか、メモをする。([……])
- 接続詞に△をつける。

ポイント 印は何でもよいが、あとで見てわかりやすいものにしよう。

早く読むテクニック 時間がない場合

- 長文を読む前に、下を書いてある[注]を先に見る。
(そのことばの意味を知っておくと安心感がある。また、ヒントになることがある。)
- 長文を読む前に、問いの全部をざっと読んでおく。(解こうと思わないこと)

では、次の文章を鉛筆を持ちながら、左のページに書いたテクニックに従って読みましょう。(問題と答えは53ページにあります。解答・解説部分は見ないで、解いていきましょう。)

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

騒音のうるさい電車などの中でも会話ができる。うるさいとは思いますが、相手の言うことはなんとか聞きとっている。聞きとれぬ部分は見当をつける。しかし、テープレコーダーでそれを録音してみると、会話はほとんど聞きとれないことに驚くのである。この差は人間の耳と機械の耳の相違による。人間の耳は自分の欲する音声を選び出し、それを増幅してキャッチし、欠損部は、補充する。それに対して、機械は音声も騒音もわけへだてしないで公平に記録してしまう。これによっても、人間の耳はあるがままのものを聞くのではなく、必要と感ずるものだけを聞く器官であることがはっきりする。必要がないと思えば、馬耳東風、聞けども聞こえずになる。

何日も病気の子供の看病をしている母親があるとする。看病の疲れでまどろみがちになるだろう。うとうとしている時、台所で物の落ちる大きな音がしても、彼女はまるで反応を示さず居眠りを続ける。ところがそのあと、病児がかすかな声を出すと、母親はとたんに目を見開く。この母親には、台所の物音などはどうでもよいが、病児のちょっとした変化でも、重要な意味をもっていて、居眠りをしながらも子供には注意が向けられているのである。

このように、人間の認識は外界の刺激のあるがままに忠実に反応して得られるものではない。われわれが理解したと思っているのは、対象のコピーではなく、あらかじめ持っている関心によって選択された情報によってつくられたものである。忠実な録音テープと比較すれば、人間の理解はデフォルメされた認識、すなわち、一種の誤解であることがはっきりするはずである。

- (注1) 増幅：ここでは、音声の大きくすること (注2) あるがまま：存在するとおり
(注3) まどろみがち：うとうとと眠いようす (注4) あらかじめ：前から
(注5) デフォルメ：変形すること

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。

主題 騒音のうるさい電車などの中でも会話ができる。うるさいとは思うけれども、相手の言うことはなんとか聞きとれている。聞きとれぬ部分は見当をつける。△か、逆接、テープレコーダーで、それを録音してみると、会話はほとんど聞きとれないことに驚くのである。この差は人間の耳と機械の耳の相違による。人間の耳は自分の欲する音声を選び出し、それを増幅してキャッチし、欠損部は、補充する。それに対して、機械は音声も騒音もわけへだてしないで公平に記録してしまう。これによっても、人間の耳はあるがままのものを聞くのではなく、必要と感ずるものだけを聞く器官であることがはっきりする。必要がないと思えば、馬耳東風、聞けども聞こえずになる。

母親 何日も病気の子供の看病をしている母親があるとす。看病の疲れでまどろみがちに彼女はまるで反応を示さず居眠りを続ける。△ところがそのあと、病児がかすかな声を出すと、母親はとたんに目を見開く。この母親には、台所の物音などはどうでもよいが、病児のちょっとした変化でも、重要な意味をもっていて、居眠りをしながらも子供には注意が向けられているのである。

結論 このように、人間の認識は外界の刺激のあるがままに忠実に反応して得られるものではない。われわれが理解したと思っているのは、対象のコピーではなく、あらかじめもっている関心によって選択された情報によってつくられたものである。忠実な録音テープと比較すれば、人間の理解はデフォルメされた認識、すなわち、一種の誤解であることがはっきりするはずである。

(外山滋比古「省略の文学」による)

必要なものだけ聞く

注意を向けている

理解している

問1 ①「それ」は何をさすか。

- 1 電車の騒音
- 2 聞きとれない部分
- 3 自分の言うこと
- 4 電車の中の会話

問2 ②「馬耳東風」とはどういう意味だと思われるか。

- 1 必要と感ずること
- 2 聞こえても気にしないこと
- 3 はっきりすること
- 4 わけへだてなく聞くこと

問3 ③「重要な意味」をもっているのは何か。

- 1 台所の物音
- 2 看護
- 3 子供の病状
- 4 居眠り

問4 この文章の内容と合わないものはどれか。

- 1 騒音の中でも会話できるのは、人間の耳の正確さによる。
- 2 人間は興味や関心によって外界の刺激に反応し、理解する。
- 3 テープレコーダーは、あるがままのものを公平に録音する。
- 4 人間の耳は、音の大きさに関係なく必要とするものに反応する。

問1

☆指示語を選んだら、必ずあてはめて意味を確かめる。

「聞きとれない部分」だけを録音したのではなく、「会話」全体を録音したのである。

問2

☆文中で説明している場合がよくあるので、見つけること。

「聞けども聞こえず」つまり、聞こえているが聞いていない。

問3

☆前後にきちんと書いてある。

「台所の物音」はいつでもよいが「病児の変化」が重要な意味をもっている。

問4

☆問いを注意して読むこと。

「合う」ものではなく、「合わない」ものを選ぶ。

☆常識や自分の考えで判断しないこと。関係のありそうな部分を探してよく読む。

- 1 人間の耳は機械のように正確ではない。
 - 2 第3段落に書いてある。
 - 3 第1段落に書いてある。
 - 4 第2段落に書いてある。
- 母親の耳は人間の耳。台所の物音は聞こえなかった。

☆この文章は第1段落で主題を示し、第2段落で例をあげ、第3段落で結論を言う、という構成になっている。

問題の答え： 問1… 問2… 問3… 問4…